

かつむすびうらましくうさうたのあそとさうさき世乃
 契りの子と一そのお身を考へたり佐香保に在をえん
 よも悲嘆の涙さめめめく音あやうもうち臥しあう
 しつらふ押ひ絶すやありんやうそ髪をきりてうら
 壯士橋といふものく身あうしつら死とぞ悟りすえり佐
 香保ハ老境子押ひてあやう強倉の玉繩といふ地より
 こりうたのどとぞ州帯をむすびるん堅固子行ひすま
 してぞあうりうりうりてハ十歳歳とぞ正念往生せしめ
 しくぞ使えし

遊女金大夫

遊女金大夫ハ新しう系あつ相登が家の局女席あり



かの桐屋ハ後都子てあり〜がおか〜家いふきて〜とい
ひなる局つね女おんなありさうそれごと子延宝七年のよ
とや石町ある異被商人あまごと云ふもの通ひてふ
かく馴おと深ふかなるが庄しやうある主人しゆじんの用事もちがひあり〜奉國ほうこく勢せい也
よおもむき〜十日五日もあ〜ころ庄しやうあるが志しまする人ひと此
ゆとよりきて〜方かたへ書状しよじやう多くあ〜ゆるふ庄しやうあると
勢せい也子こ勢せいひく孫まご河かの途中とちゆう子て〜ひて牙はありり
るよ〜こと傳つたおこ〜け〜まきて〜あれを〜いた
る〜嘆なげきさうあ〜こ〜あ〜てあり〜ふ何なにがの海うみ都みやこさぬ
ぎぬ小こ慰なぐさめ〜ら〜つ〜や〜ふんを〜率おほ〜傳つたをよ
ぬき〜維まもをよぬせぬん〜ろ子こ供く養やう〜ら〜つ〜てきて〜



ハ勤とめ此こ身みあるバ又〜客きやくをむ〜ら〜が〜延えん宝たう
六年ろくにん吉原きちげん焼や亡なせ〜ころ子て家いへあるといま〜ま〜あ〜げ
里さと〜頭かぶ桐屋きりやもろ〜住居すまひも〜客きやくあれバ局つね子てりてれ〜
た〜あ〜秋あききて〜が客きやくの夜よを〜あて帰かへ〜あ〜と〜
ひ〜うおまひ〜を〜曉あかつきを〜までぬ〜も〜あ〜り〜
八月はつげつの末すえつ〜を〜も雨あめ〜い〜あ〜ら〜る局つねの戸と
を〜り〜とあ〜た〜音ね〜ら〜ま〜て〜誰たれ〜い〜ふ〜
昔むかし〜は〜あ〜る〜〜〜〜〜
あけ〜と〜ふ〜さ〜も世よ子こ在あ〜る〜ハ世よ老らう同どう亦またを〜
整ちやう〜の〜と〜あり〜も〜あ〜る〜の〜ハ〜子こ跡あと〜
あ〜ひ〜る〜女おんなの情なさけ子こ亡な然しか此こ声こゑの〜と情なさけ〜も〜こ〜ち〜
入いれ

一ノ下

かくし子て臥したれははるるふこのきとてうが棚軍小金
 大夫とのひー葦女隣の局子のぬくありうがぢふく目せ
 さあしてとふあより何ひあさうし子てあやしくおひひ
 くぢくぢいて何やらんとんをさづめて隣の局は驚き子
 の透間あつをどけき見れば勝まきま子怪しき形のはれ
 足えり色ど局の戸をあけあさうきううううの亡者を引
 とる人片手子行燈さげくあしく足る小白き指衣を着て
 紙を三角子折く教小あさううそハ新あひある扇子
 登久をうが下男子てハ教くふをのこりうううきてう
 子恨あうくそのううふくハ欺きおしたま子てぞあま
 りるあまの母家あもあうせ彼が五人文をうあもこけ

うきめえせんといひうごあるの母家さあううとて
 きをうといひの義も浮々住んれハ彼がやうらとさうういた
 くおく憎く憎く憎くあつううとく大男と中子引きさげてめ
 まくは路の上ふぞ投出ー局の戸に立てそがまう金大
 夫が二の附れありさぬハ音子まきそ江妙言る局の大井子
 海津は葦女金女小もあさうまぐくぞ見さううくとあや

綾部道弘

綾部道弘ハ豊存の人ありその先丹妙綾部子出さう因て
 氏とやう子孫豊存子徒居して大友家の屋う大友家巳
 子滅るの母祖父可春父道一系徳を降く仕せむとめ
 する弘天資別直風子五世あり幼ときううそ叔父の家

子往きて居りし頃その家人為弘く推弱あるをあらわたりて
其乳のあつむいせしりも子及弘く救ふる潜り逃れ出て曠野を
一里餘をそりり家子ゆかり父母大子駭きつきてはる乃
膽志あつをせりしとぞ附十年八歳二れより控育すを最ふ
り貳子言又教百言を授けよありむる小一む目をるれは
いさうも忘るるをあらうれが父母を此強記あるを嘆美し
種愛物子甚しく道一つぬ子竊小嘆し云里子良師子
く家遊資小乏千里の名弱とていさう子驚材た
めんとり歳十七ふして母を喪り日夜號呼しり墓の
側子廬しり躬沙石を運ひて墳を成せり弱冠のころ家
の貧しきが為子隣封子仕友しり時々帰觀せり餘力あれ

ハ書をよむ医とあひ毎子甘言をなりて以て終養をせき
んと抄りし子既少して艱苦困頓東西漂泊すを年あり
家見病子卧すを久く資産とさききり田宅を典す
小至北り及弘郷子ゆかり候子並仕りその歳奉を分る
その田宅を償ひ還して存見身ありてこれ二子お不推幼
あり及弘号哭控育して成立すをこととゆり素より親黨
存舊子敷く解給き難をすむひりともその勞を辭せり
うりし乳の色小接せり不正の聲とせり長友たるかの
不對すれども直言しり諱をさるるをかく三人人をいへる
の嚴あつを悔り抄りむるも久く志存る思を信すとい
りりて郷里の人老黨の伯夷と稱しり言とせりりやう

これハ自前僕不孝として華飾を喜ぶはたあら人ありて
子彩服を遺るものありは服するを許さずして云
先君貧乏子して世子終はりは常子養ひありす
るとの言の子侍せざるを恨と云ふは辛勤むるも多年さい
己の子俸資を享けて見女を暖養ふと君北惠あり況
人情ハ奢りハ別ハ易く儉ありハ難く見女を愛せざる子
はあは妻後不習はあめざんとせおりのことす又刀劍の
鑿を善くす保その良を知ずして鬻ぐものありこ
れをゆるといふは元は主を求めてこれを還してあは私する
とありその操行大概く類のあり子子教ゆるは書小學
抄あは古又の詩をりてやういさうも声伎博局のたと習ハ

あらず居常四書を熟玩せり晩年子より世事紛沓乃
同くそとをいさうも考を廢する國家前代の迹名臣
義士の実をたはすことなる歴々として語記せり試子考
と撞ひてこれを同ありとも善考とありその子安正勤後江
戸子ありたるは書書を遺りて云予善考は百子長とあり
志きり子峻親を経て心子聖就を存うともいお風志
を僕もは再世うかへるが形ひを遂ぐることをほんと抄り
聖孝子汝が生るるといふ年己子強仕をやく衰羸
を覺えり抄あり汝が成立を見りおおはさるる今や汝が
勤學しき意うざるを知らず吾形ひは汝が孝女大か
りこれ乃ハ人倫子外ありはいつく小浮華子馳せて日用を

羣むら々々すすととありあり元もと事ことの義ぎ子こ害がいおおきき者ものハハ時とき必かならず子こ志し

 ぐぐ々々妄まがりり子こ國くに礼れい子こ遠とほぶぶととありあり元もと親おや友ともニニ書しよをを

 元もと感かん涙なみだせせるる元もと禄ろく已ま郊けうの林りん口くち疾やまををははてて年ねんをを

 踏ふええてておおろろくく劇げき々々安やす正まさ當あたはは戸と子こ在ありりてて職ちやくをを持もつつ

 北きたてて暇いとまをを乞こふふとと得えずず其その友ともああるる伊い東とう信しん友ゆうのの口くち戸と子こ來きれれ

 るる子こ語ごをを考あてて云いふふ曰いはくく疾やま已ま子こ劇げき抄しやうあありり汝なんぢとと永なが訣げつああるる

 私わが情なさけ子こひひりりてて公こう義ぎをを虧くととあありり若わかきき子こららはは帰き省せいすす

 正ただととああるる不ふ孝かう子こととせんせんままにに論ろん語ごハハ古こ今いまのの事こと終はつありり一いち日にち

 もも讀よままるるとといいふふ久くくくてて穿うりり程ほど々々謙けん卦け辞じ汝なんぢままににままるる

 くくままりりてて遠とほぶぶととあありり元もと他たいいふふととあありり元もと三さん

 月つき廿にじふ日にち遂つひ子こ逝せいすす享きやう年ねん六む十じふ六む時とき元もと禄ろく十じふ三さん年ねん庚かう辰ちん乃なり

歳あり

美成みせい云い復ふく邪じや乃なり弘こうの傳でんハハ伊い後こう赤せき涯げの文ぶん少すく々々

 傳でん々々雨あめ少すく々々実じつ子こ希き世せい此こゝ篤とくりりのの事こと々々

鳥の勤十節

元もと禄ろく此こゝ京きやう師し室しつ所しよ通とほりり云いふふ云いふふ云いふふ云いふふ云いふふ

 ととああるる人ひとあありり一いちがが書しよ畫えおおよよびび古こ昔せき抄しやう乃なり鑑かん定ていををももととああるる

 されされどど生せい来らい希き有ゆうののおお好このみ々々々々常じょうのの衣い服ふくありり調てう度ど子こいい

 たたるるままででととああるる高たか織おりをを差さ用よう々々扇せん子こ脇わき指さし此こゝ柄へいいといと襪わく

 平へい籠ろう中ちゆう若わか子こ履りままででもも高たかああるるぬぬいいととああるるかか不ふ朝あさ夕ゆふのの

 食たべ物ものもも餘あまハハわわととあありり刻まめめるるをを用もちハハ煮におおかかととああるるハハ大おほ牛うし房ぶどう此こゝ難がたハハととあありり筋すぢああるる品しよををのの調てう々々用もちハハ

見せしめたる筋の撻撻をそののりたるあらはあれど
撻撻をきくも筋の撻撻をきくもそののりたるあらはあれど
撻撻をきくも筋の撻撻をきくもそののりたるあらはあれど
撻撻をきくも筋の撻撻をきくもそののりたるあらはあれど
撻撻をきくも筋の撻撻をきくもそののりたるあらはあれど
撻撻をきくも筋の撻撻をきくもそののりたるあらはあれど
撻撻をきくも筋の撻撻をきくもそののりたるあらはあれど
撻撻をきくも筋の撻撻をきくもそののりたるあらはあれど
撻撻をきくも筋の撻撻をきくもそののりたるあらはあれど
撻撻をきくも筋の撻撻をきくもそののりたるあらはあれど

美成云今の世子縮布此島織といふ古(織筋
縮布)新日本紀小古語撻撻の文布を筆して
筋あり布ありといふ筋といふは此布今の島
織ありまゝ縮平盛君記の巴山前下向乃條子紫
格子和ありは倍子甚盤島といふものといふ
ては條子格子和重子格子和といふを二つき名と
いふは、たてよこ 横高換高といふは織筋もく縦換子織
たるを格子和といふは、たてよこ 織筋を高といふは
ハハと廣東撻撻刺をその島國此産子て舶来
の品ありをやく織筋を島布といふは終小
稱呼といはれまゝあり

異國を島といふは、たてよこ 横高換高といふは織筋もく縦換子織
たるを格子和といふは、たてよこ 織筋を高といふは

抑しての事もまゝあり朝祥並 喬織の傳名を然學
本も喬織といふと傳ふ方言あり
夙修布おとつりて喬人の貢物なりそ乃
國に此製遣子係れり候せ替りて又古代喬とい
つるを古物語なりと見えし海濱のてさて後世喬
事といふもの形を傳ふるを喬ゆとてその喬
の字を傳ふるを斥ゆとてこのいさる國をいふ
此を程とせしきとハてつりてえうおとれはつりつ

妙喜尼

妙喜尼ハ豊原速見郡鶴見村の人あり名は某氏へ嫁
しつり男子一人産むたれど不孝少してをやく夫よりれ次
て男子をも表ひく存その舅姑子率やるといとおめやふ

孝善者 夫より産むる子ありたれバ 自其の子
おとつりて親族もまゝとあるとあらはれハ尼とありてある
いそく終小髪を剃り比丘尼とあり日杖唱名おとつり
造次越作事あるとて子ありて佛思ありと稱すたやひ
夏患の地へさきとてともいさるもその心を動き去る
とれしあり人同り人ありて汝は水をそぎうるとあり
ハ恵むるも尼といか何れを志せん 暴風ふあつりと替りて
こ又同さるハあり人ありて汝を擲とあるは憤りて尼といか
何ぞ憤らんあやまちく尼は落るもあつと替りてのこ
偏子佛思は扱ひうさきをせし書小ころとせりいそる人
争ふの違あらんやとつりて夏樂伏威とてとて

至とれくある耐とよき木子寺小詣でたりしは寺僧の
 いそぐりやをきり本も小行あり過ちて躰れ息も絶ゆる
 かりお里を色ハ傍流うち發きとろくし人ごちつきて佛
 思くと稱す傍々々耐も佛思しつくりあやまといふさ
 色ハよき子而死せたりきそハ佛思子あはれやとそり又飯
 を炊くもあやうく誤り金ある沸湯小手をやまきくいとあやめ
 る渡子も佛思と稱すと人の誇りく苦痛たえるときをり
 う何の佛思うあはれとといふ子尼言地獄の苦患子々々
 相あはれこれハ佛思のあはれ廣大を色あるを知りといふ
 るとや性といつしめり自耕し織りし衣食子力めたりう
 くといそり小ても餘財あれハ三玄子供養し米砂衣服か

法く人子きふ下あし人あはれハ尼子贈りぬのすそとあ
 五ハ必これハあの人と交り吉凶とも子親子往來訪問あり
 年八十子躰えりし牙體健やうし佛を供養する此際子
 織とろりの布すわがあふ一丈二寸子おまがりといふ郷黨隣
 里の者これ篤實をえでずといふとあし年九十子をく
 しと天竺中衆あうぬとそり
 辰巳屋惣惣書
 辰巳屋惣惣書氏ハ伊東小石川傳通院あり茶漬飯のえ
 せをひくきて生計をいとおありそハ晩年のといふ年ころ
 里へやどハ平井辰五郎と通稱し陸人可あはれを登とそり
 傳とよりのれ芽子あり生來質素を好免りうつくと壯

年の肘に袷袂をりて世子様をさるる事子強きと挫き弱きを
 を助するの氣性ありて慷慨ある者あり長已屋と家号を
 名のり兄ををひりきし安永三年の夏好くそいせし傳
 通院の子院ある大黒天との外子孫信するもの多く講伴
 とのふれ此の人を甲子の日子集詣りてそれの子院子書集
 一ひと譽く小ありの穢を建てる酒食の賤ひ大とあり
 ずありしがいく程かくそのとやまたりし子ありむひをうま
 しく門前子茶漬飯田樂堂齋を南ふこの店ハ鬼のまゝこれ
 まて人恒むとを好むさうしやゑとく空くまゝありし
 かの入乃恒ありあり兄世のおぎをひ日を追くせんま
 ぐふくをこれとれとさく想き弱年よりさうさう口げよと

巧みして人の興ふたるとあんまをさるるくく山主権
 祝神田明神の神事祭禮あどまやあす賤の女子
 お持あるむい老不唐人此等ひあどりくさぬくのそ
 うき俳諧しき観者さしき笑つむるを世人あ
 おぬく知りし神事ある毎子このおがいでたちをあん
 じんをさるるくして天明の未だる想言神事といふと
 を自たさゆい假面をきてくおくの踊をあり巫女の
 おぬをあらとひとくあす興ありし諸侯の郎中
 あり縮着祭の神事子足さるると志むくありととどま
 らし金銭の賜さうおとていひさうもあつるとあつと
 とよりしが遊戯ありしとくお祭の為にせんこの程